

人間学類

学生の確保 (人)	年次		定員	志願者	受験者	合格者	入学者		
	1年次		120 (120)	705 (752)	705 (752)	133 (131)	0 (0)	127 (126)	0 (0)
	編入学・再入学		()	(0)	()	(0)	(0)	(0)	(0)
学生の進路 (人)	卒業生	就職者	就職者の内訳			研修医	進学者	その他	
			企業	教員	公務員				
	138 (146)	43 (41)	34 (33)	2 (2)	7 (6)	0 (0)	52 (47)	43 1 (46)	

・ () は前年度の数値を， は外国人留学生を内数で示す。

1 人間学類の活動

【教育】

人間学類は、教育学、心理学、心身障害学の3主専攻を基礎として、人間科学について総合的に学習し、幅広い知識と技能をそなえた、社会的貢献のできる人材の育成を主目的にしている。この目的を達成するため、1学年においては、各主専攻より必修科目を週2時間だし、あわせて6時間の共通授業を組んでいる。その上で、2年次に主専攻に振り分け、より専門的な研究へと導いている。

主専攻への振り分けについては、特定の主専攻に学生が集中して学習効果が低下することを避ける意味で、定員の上限を設定しているが、この制度は受験生のあいだでも周知されている。

学類の授業科目については、年度はじめに「人間学類シラバス」を配布して、学生には受講の心得を、教官には自己評価の心得を徹底している。「人間学類シラバス」には、教官のプロフィールと顔写真も載せてあり、学生に親しみやすいものになるようにしている。

【学生生活】

5月に学内で起こった4年生の不幸な出来事をきっかけに、担任と学生とのつながりを強化するように努めた。さらに、同じ学年の担任間での相互サポート体制と、学類全体での相談体制をつくり、場合によれば、保健管理センターの職員に助言を求めることにした。

本年度より、「人間学類長賞」の表彰制度を発足させた。第1回目の本年度は、学業優秀者・模範的活動者のあわせて6人を、各専攻、学生専門委員会、学類長などの推薦により選んだ。

2 教員の教育業績評価の状況

教員の教育業績評価については、本年度は組織として実施しなかった。

これまで、学生が自主的にしていた授業評価も、本年度はなされなかった。ただ、学生は新入生用に作成した学類案内の中で、共通科目などの評価を部分的に行っている。学生の授業評価については、学類として取り組まなければならない課題となっている。

3 自己評価と課題

主専攻決定のさい、第2希望にまわされた学生の指導体制が、まだ充分になされていないため、3・4年次になって、進路に迷う学生が少なからずでてきている。学類会議でも検討したが、4年間持ち上がりの担任制度と、主専攻内での指導教官制度を併用して、きめ細かな指導体制を作り上げていかなければならない。

新入生オリエンテーションと大学説明会のときには、多くの学生が自主的に参加し、学生間の交流を深めている。学類の教育を良くしようという学生の熱意を十分に吸収し、実践的な行動への意欲付けをしていきたい。学生控室のリニューアル計画にも、学生を参加させていきたい。

卒業後の進路指導については、就職委員会の活動を活発化し、学生の進路の多様化に応えていきたい。近年大学院への進学がふえているが、教職希望者へのサポートも充実していきたい。